

南条殿御返事

御書新版 1923年6行目〜1924年1行目
御書全集 1578年5行目〜8行目

（法妙人貴の事）

釈迦仏は「我を無量の珍宝をもつて億劫の間供養せんよりは、末代の法華経の行者を一日なりとも供養せん功德は百千万億倍過ぐべし」とこそ説かせ給いて候に、法華経の行者を心に入れて数年供養し給うこと、有り難き御志かな。金言のごとくんば、定めて後生は靈山浄土に生まれ給うべし。いみじき果報なるかな。

語句

靈山浄土

仏の住む清浄な国土のこと。「靈山」とは靈鷲山のことで、釈尊が法華経を説いた場所。「浄土」とは衆生が住む国土（穢土）に対して、仏の住む清らかな地をいう。

通解

釈尊は「私を、無量の珍宝をもつて、億劫という果てしなく長い間、供養するよりも、末法の法華経の行者を、たとえ一日でも供養する功德のほうが、百千万億倍も優れている」と説いておられるので、法華経の行者である日蓮を信じて、この数年の間、供養されていることは、なんと、ありがたい志であろうか。この金言（仏の言葉）の通りであれば、必ず後生は靈山浄土にお生まれになるに違いない。なんと素晴らしい果報であろうか。

果報

過去世に積んだ因による結果。報い。